和文化教育

第十三回 全国大会 奈良大会

奈良〈まほろば〉からの
伝統文化教育の発信

日程 平成二十八年十一月十九日(土)～二十日(日)

場所 奈良学園大学 三郷キャンパス 三郷町立野北三―三―一

呈茶	✿ 11月19日(土) (8:45～9:25) (11:45～12:50)	5号館1階茶室
開会行事	✿ 11月19日(土) (9:30～9:45)	5号館521教室　三郷町長挨拶　会長挨拶
研究発表会	✿ 11月19日(土) (10:00～11:45)	第1分科会　5号館525教室　第2分科会　5号館5213教室 第3分科会　5号館5215教室
理事会	✿ 11月19日(土) (11:45～12:15)	5号館538教室(3階)
総会	✿ 11月19日(土) (12:20～12:50)	5号館538教室(3階)

地域一般無料公開

雅楽公演	✿ 11月19日(土) (13:00～13:30)	体育館　公益社団法人 南都楽所「蘭陵王」
和太鼓演奏	✿ 11月19日(土) (13:40～14:00)	体育館　三郷町立三郷小学校ふれあいクラブ
記念講演	✿ 11月19日(土) (14:15～15:30)	体育館　「毘沙門天信仰と信貴山」 野澤　密孝(信貴山真言宗宗務長・総本山朝護孫子寺事務長)
シンポジウム	✿ 11月19日(土) (15:45～17:30)	5号館521教室　「郷土の伝統・文化等に関する学習の推進」 〈シンポジスト〉 大橋　淳(奈良県教育委員会学校教育課指導主事) 北浦　義弘(奈良県教育委員会学校教育課指導主事) 原田　裕(奈良県立高田高等学校教諭) 大西　浩明(奈良市立飛鳥小学校教諭) 〈コメンテーター〉 梶田　叡一(和文化教育学会会長・奈良学園大学学長) 〈コーディネーター〉 渡邉規矩郎(奈良学園大学人間教育学部教授)
閉会行事	✿ 11月19日(土) (17:30～17:45)	5号館521教室　次期開催地挨拶　理事長挨拶
巡検	✿ 11月20日(日) (9:00～13:00)	聖徳太子の愛犬「雪丸」が眠る達磨寺、風の神を祀る龍田大社の見学 信貴山朝護孫子寺で「信貴山絵巻」を観て、精進料理を食す

主催　和文化教育学会　和文化教育第13回全国大会奈良大会実行委員会
共催　奈良学園大学
後援　文部科学省　奈良県教育委員会　三郷町教育委員会　王寺町教育委員会　日本教育新聞社

三郷町制施行50周年記念協賛事業

[和文化教育第13回全国大会奈良大会事務局]
〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北3-12-1 奈良学園大学
TEL.0745-73-7800　FAX.0745-72-0822
太田　雄久　E-mail gto@naragakuen-u.jp

目　　次

1．大会要項 …2

2．会場案内図 …4

3．研究発表要旨

第１分科会　　５号館521教室（２階）

① 無形文化遺産「能」の学習を通して～あいさつ・けじめ・れいぎを学ぶ～
斑鳩町立斑鳩小学校　徳　田　　匡 …6

② 有馬小学校における伝統文化の授業実践
神戸市立有馬小学校　西　村　康　幸 …6

③ 歳時記的・風土記的国語科カリキュラム試案作成に向けて
～伝統的な言語文化を学ぶための教科書活用～
プール学院大学　今　宮　信　吾 …7

④ 小学校国語科における主体的協働的に読む授業の一提案～三つの絵巻物を活用して～
大阪体育大学　上　月　敏　子 …7

第２分科会　　５号館525教室（２階）

① 京街道枚方宿「意賀美神社」奉納算額の教材化について
ＮＰＯ法人和算教材化研究会平　野　年　光
枚方市教育委員会　神　田　裕　史／枚方市立枚方小学校　木　谷　圭　介 …8

② 郷土奈良の仏教文化を学ぶ
奈良県立法隆寺国際高等学校　栗　本　新　吾 …8

③ 茶道具制作から学ぶ伝統文化～石川県立工業高等学校での取組をもとに～
石川県立松任高等学校　鶴　野　俊　哉 …9

④ 「文様」で伝える吉野の魅力の情報発信活動
～「文様」をレーザー加工で施した割り箸の製作を通して～
奈良県立吉野高等学校　杉　本　恵　司・久　見　宗　資 …9

第３分科会　　５号館538教室（２階）

① 教育と日本の伝統文化～授業・茶道・国際交流を通しての学び～
奈良学園大学人間教育学部・学生　上　山　千　尋 …10

② 昔遊びと子どもの育ち
南九州大学　野　村　宗　嗣 …10

③ 双六にみる職業観・仕事観の変遷
築地双六館　吉　田　　修 …11

④ 子ども狂言塾の取り組み
兵庫県加西市文化・観光・スポーツ課　高　井　勝　仁 …11

4．記念講演レジュメ

毘沙門天信仰と信貴山
信貴山玉蔵院住職・信貴山真言宗宗務長　野　澤　密　孝 …12

5．シンポジウムの趣旨 …14

6．シンポジスト提案要旨

◇ 「奈良 TIME」～郷土の伝統、文化、自然等に関する学習～について
奈良県教育委員会事務局学校教育課　大　橋　　淳 …15

◇ 県内小・中学校における郷土学習の充実
奈良県教育委員会事務局学校教育課　北　浦　義　弘 …16

◇ 『義経千本桜』の上演をめぐって
奈良県立高田高等学校　原　田　　裕 …17

◇ 奈良を撮り続けた人～入江泰吉の学習から～
奈良市立飛鳥小学校　大　西　浩　明 …18

7．資　料 …19

平成28年度 和文化教育 第13回 全国大会奈良大会要項

1 開催趣旨

この大会の趣旨は、古都・奈良の地域に根ざした伝統文化教育の取り組みを発信するとともに、全国各地の伝統文化教育の実践を交流し、日本の伝統文化教育の振興・発展に寄与することにあります。

2 テーマ

奈良〈まほろば〉からの伝統文化教育の発信

3 主催 後援等

主催 和文化教育学会　和文化教育第13回全国大会奈良大会実行委員会

共催 奈良学園大学

後援 文部科学省　奈良県教育委員会　三郷町教育委員会　王寺町教育委員会　日本教育新聞社

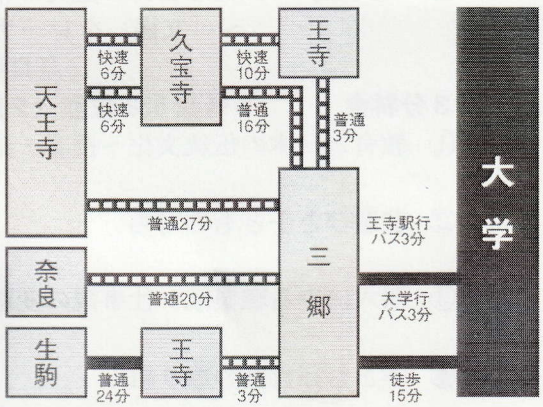
4 開催地及び会場

奈良学園大学 三郷キャンパス

〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北3-12-1
TEL.0745-73-7800(代)　FAX.0745-72-0822

- JR「三郷駅」より徒歩約15分
- JR「三郷駅」より、系統14番「奈良学園大学」行きバス約3分
- 大学行バスは、8時18分発か8時32分発をご利用下さい。
- お帰りの頃は土曜日でバスは運行していません。
  三郷駅まで徒歩か王寺駅までタクシー(約10分)をご利用下さい。
- 閉会時と懇親会終了時は、タクシーの配車をいたしますので、
  予め大会受付にお申し出て下さい(ただし乗り合い・各自負担)。
  (王寺タクシー0120-822821　愛和交通0120-460032)

※昼食は大学食堂をご利用ください(各自負担)。



5 日程

【第1日：11月19日(土)】

8:45	8:45～9:25	9:30～9:45	10:00～11:45	11:45～12:50	13:00～13:30	13:40～14:00	14:15～15:30	15:45～17:30	17:30～17:45	18:00～19:30
受付	呈茶	開会行事	研究発表分科会	(11:45～12:15) 理事会　昼食 呈茶　(12:20～12:50) 総会	雅楽公演(体育館)	和太鼓演奏(体育館)	記念講演(体育館)	シンポジウム	閉会行事	懇親会(大学食堂)

【第2日：11月20日(日)】

2日目の見学会　9:00～13:00

集合：王寺駅南口9:00
　　王寺駅→達磨寺→龍田大社→信貴山朝護孫子寺(精進料理の昼食)

解散：王寺駅または法隆寺13:00

内容

11月19日(土)

1. 研究発表《10:00～11:45》(各発表時間20分・質疑5分)

第1分科会 5号館525教室(2階)

《司 会》 余郷　裕次(鳴門教育大学)　伊崎　一夫(奈良学園大学)

①**無形文化遺産「能」の学習を通して**～あいさつ・けじめ・れいぎを学ぶ～
　徳田 匡(斑鳩町立斑鳩小学校)

②**有馬小学校における伝統文化の授業実践**
　西村　康幸(神戸市立有馬小学校)

③**歳時記的・風土記的国語科カリキュラム試案作成に向けて**～伝統的な言語文化を学ぶための教科書活用～
　今宮　信吾(プール学院大学)

④**小学校国語科における主体的協働的に読む授業の一提案**～三つの絵巻物を活用して～
　上月　敏子(大阪体育大学)

第2分科会 5号館5213教室(2階)

《司 会》 岡崎　均(大阪体育大学)　瀧明知恵子(奈良学園大学)

①**京街道枚方宿「意賀美神社」奉納算額の教材化について**
　平野　年光(NPO法人和算教材化研究会)
　神田　裕史(枚方市教育委員会)
　木谷　圭介(枚方市立枚方小学校)

②**郷土奈良の仏教文化を学ぶ**
　栗本　新吾(奈良県立法隆寺国際高等学校)

③**茶道具制作から学ぶ伝統文化**～石川県立工業高等学校での取組をもとに～
　鶴野　俊哉(石川県立松任高等学校)

④**「文様」で伝える吉野の魅力の情報発信活動**～「文様」をレーザー加工で施した割り箸の製作を通して～
　杉本　恵司(奈良県立吉野高等学校)
　久見　宗資(奈良県立吉野高等学校)

第3分科会 5号館5215教室(2階)

《司 会》 永添　祥多(近畿大学)　増井　眞樹(奈良学園大学)

①**教育と日本の伝統文化**～授業・茶道・国際交流を通しての学び～
　上山　千尋(奈良学園大学人間教育学部・学生)

②**昔遊びと子どもの育ち**
　野村　宗嗣(南九州大学)

③**双六にみる職業観・仕事観の変遷**
　吉田　修(築地双六館)

④**子ども狂言塾の取り組み**
　高井　勝仁(兵庫県加西市文化・観光・スポーツ課)

2. シンポジウム
郷土の伝統・文化等に関する学習の推進《15:45～17:30 5号館521教室(2階)》

《提 案》 **「奈良TIME」**～郷土の伝統、文化、自然等に関する学習～について
　大橋　淳(奈良県教育委員会事務局学校教育課)

県内小・中学校における郷土学習の充実
　北浦　義弘(奈良県教育委員会事務局学校教育課)

『義経千本桜』の上演をめぐって
　原田　裕(奈良県立高田高等学校)

奈良を撮り続けた人～入江泰吉の学習から～
　大西　浩明(奈良市立飛鳥小学校)

《コメンテーター》梶田　叡一(和文化教育学会会長・奈良学園大学学長)
《コーディネーター》渡邉規矩郎(奈良学園大学)

11月20日(日)

巡　検《9:00～13:00》

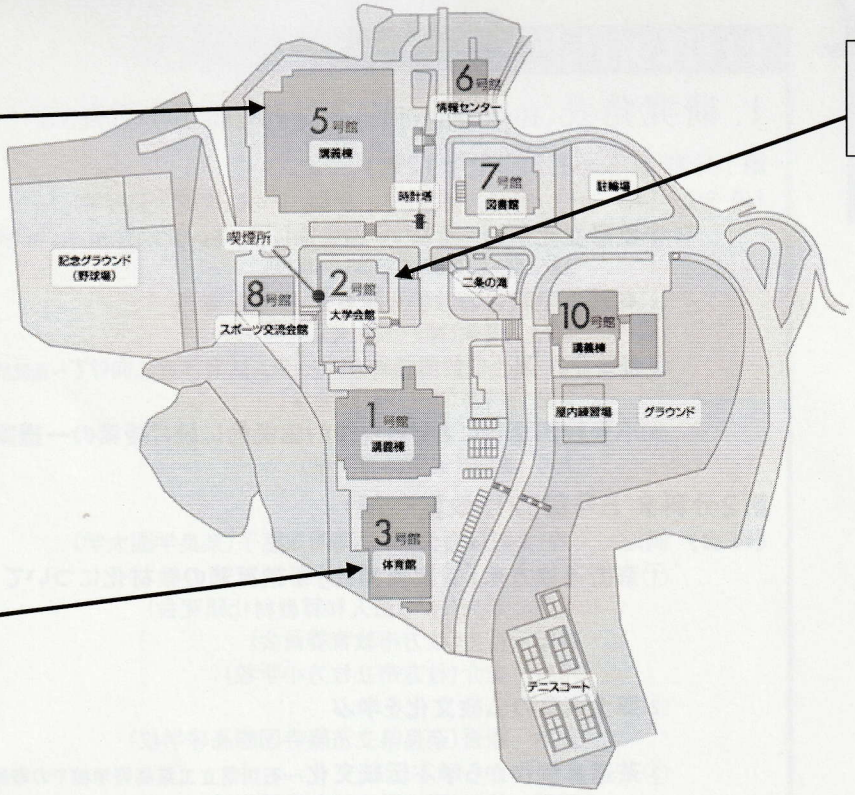
聖徳太子の愛犬「雪丸」が眠る達磨寺、風の神を祀る龍田大社の見学
信貴山朝護孫子寺で「信貴山絵巻」を観て、精進料理を食す
(法隆寺または王寺駅で解散予定)

＜奈良学園大学三郷キャンパス配置図＞

（５号館）
呈茶
開会行事
研究発表
理事会
総会
シンポジウム
閉会行事

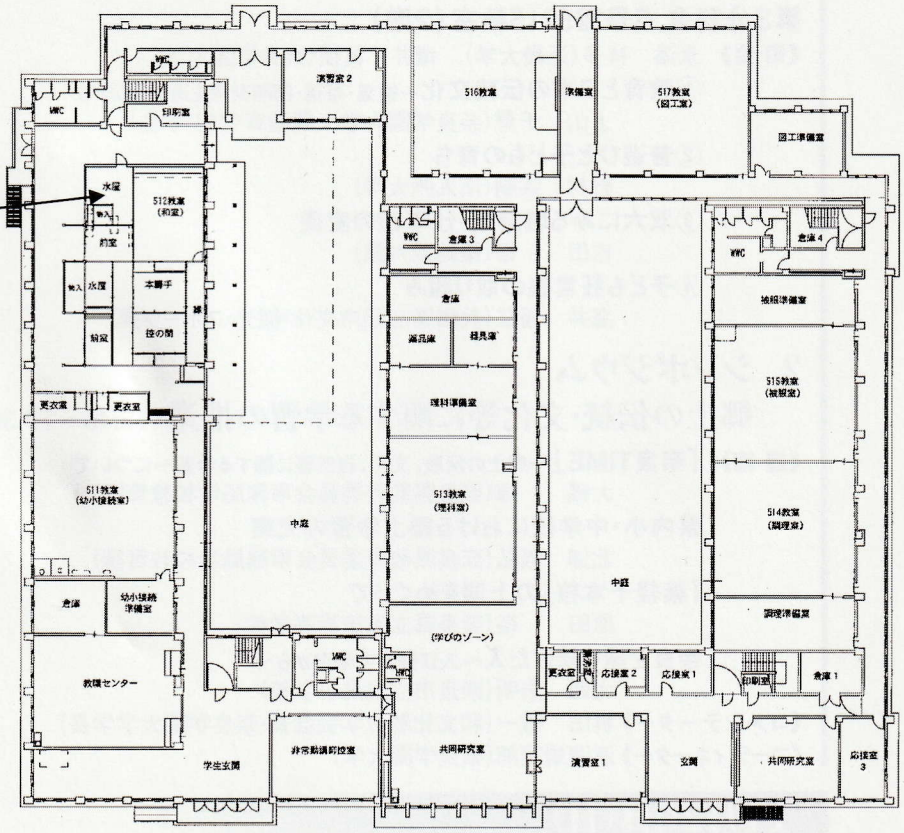
（２号館）
懇親会

（体育館）
雅楽公演
和太鼓演奏
記念公演

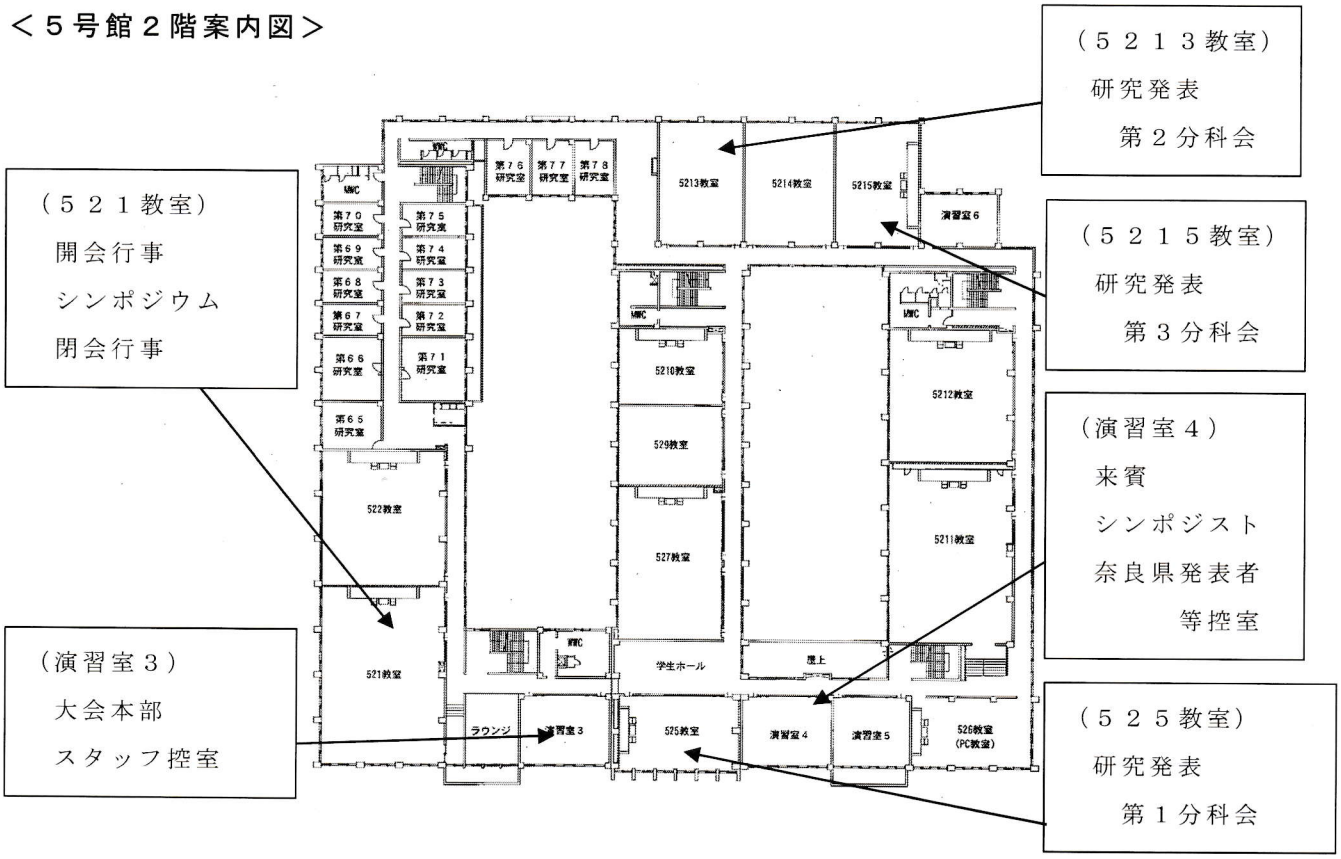


＜５号館１階案内図＞

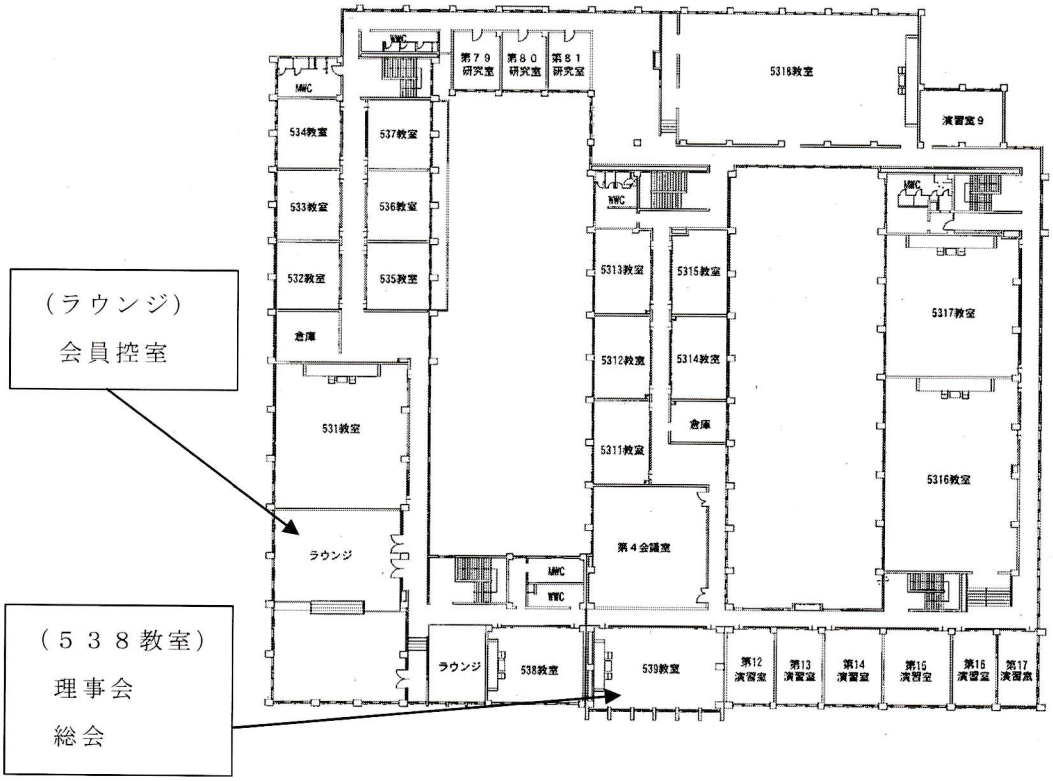
（茶室）
呈茶



＜５号館２階案内図＞



＜５号館３階案内図＞



研究発表

第１分科会

司会　余郷　裕次（鳴門教育大学）　井﨑　一夫（奈良学園大学）

１　無形文化遺産「能」の学習を通して～あいさつ・けじめ・れいぎを学ぶ～

斑鳩町立斑鳩小学校　徳田　匡

ユネスコ世界文化遺産リストに、日本ではじめて登録された法隆寺を校舎から望むことのできる斑鳩小学校は、来年創立130年を迎える。本校では、聖徳太子の時代から1400年以上にわたって大切にされてきた十七条の憲法の第一「和を以って貴しと為し‥‥」という「和」の精神を基調として、人権を尊重する民主的な社会の発展と、新しい文化の創造に努める「豊かな人間性を備えた児童の育成」を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。さらに、ユネスコ無形文化遺産日本第一号として登録された「能楽」の金剛流発祥の地が校区内にある本校では、平成15年より「伝統文化を尊重する教育」を推進するため、第３学年の「総合的な学習の時間」において、「能」を教材化した体験的学習を展開している。

この「能」学習では、「あいさつ・けじめ・れいぎ」を大切にしている。これらは、学校生活だけでなく、今後どんなに社会が変化しようとも「時代を超えても変わらない価値のあるもの」として捉え、確実に児童の身に付くよう指導に当たっている。そしてこの学習は、10年以上を経た現在では本校の伝統となり、特色ある貴重な学習の成果として、伝統文化の継承とともに児童の規範意識の向上等に大きな効果をもたらしている。また、「あいさつ・けじめ・れいぎ」の取組は、今では本校の教育方針の一つとなっており、何のために「能」を学ぶのかといった学習意義を児童が理解し、児童の自ら主体的に学ぼうとする姿勢につながっている。

約600年にわたって人々に愛され受け継がれてきた伝統芸能である「能」を自ら体験し学習することによって、子どもたちの心に「郷土を愛する気持ち」や「伝統・文化を尊重する態度」が醸成されるとともに、他国の伝統や文化も尊重し、国際社会の平和と発展に資する人材に育ってくれることを願っている。

２　有馬小学校における伝統文化の授業実践

神戸市立有馬小学校　西村　康幸

有馬小学校は名前の通り，名湯有馬温泉にある。神戸市で最も日本の伝統文化を感じられる環境にあると言えるだろう。そんな環境の中，全校生34名という少人数を生かし，伝統文化に取り組んでいる。3年生ら6年生まで20名が総合的な学習の時間を中心に伝統文化の学習に取り組いる。その伝統文化学習の一つとして、毎月2時間，三味線演奏に取り組んでいる。校区内の現役の芸妓さんに講師として指導してもらっている。夏祭りや小学校と町の合同の文化祭などでその成果を発表している。二つ目として，月に1回茶道に励んでいる。隣接する福祉センターの和室を使用して裏千家の先生数名に指導してもらっている。学年が上がるにつれて，取り組むこともレベルアップして，6年生の最後には、保護者を招待して茶会を開くことが伝統になっている。三つ目として，有馬の町に関係することを題材にしたものに取り組む。3年生は環境学習の一環として有馬川に生息するホタルの鑑賞，幼虫飼育・放流に取り組む。4年生は有馬温泉を愛した太閤秀吉が好んだヒョウタンの栽培・加工に取り組む。5・6年生は，「有馬タウンガイド」という，観光客に有馬の文化財や人気スポットなどを案内する活動に取り組む。その他としては，全校生と保護者とで校区内にヒョウタンや葉ボタンを植えて育てる活動にも取り組んでいる。代表委員会を中心に，札幌市の温泉の町定山渓温泉の定山渓小学校と学校間交流を続けている。

このように有馬小学校では，学校を挙げて「伝統と文化」の学習に取り組んでいる。本発表では、その成果と課題を明らかにしたい。

3　歳時記的・風土記的国語科カリキュラム試案作成に向けて
―伝統的な言語文化を学ぶための教科書活用―

プール学院大学　今宮　信吾

2020年に向けて新指導要領のことが話題になっている。小学校国語科では、アクティブ・ラーニングの他に、伝統的な言語文化の指導やより一層の言語活動を充実が求められている。伝統的な言語文化の指導については、開発途中であり、今後の展開が期待されることである。そして、指導要領改定の文言には、カリキュラム・マネージメントということばも見られる。これは、現場の教員に、地域や学校の実態に合わせた教育課程の編成を求めていると解釈できる。

そこで、本発表では、その取りかかりとして、中洌　正堯が提唱する「歳時記的・風土記的アプローチ」を取り入れたカリキュラム作成に向けた試案を提示する。現行教科書の各学年における伝統的な言語文化に関わる教材・単元を収集し、指導要領でねらっている能力の育成と関連させて、カリキュラム作成のための要素を導き出す。具体的には教材一覧表の提示のその傾向の分析である。また、歳時記的な要素としては、指導時期と指導内容の検討が必要となる。風土記的な要素としては、地域素材の活用と補助資料の必要性が検討事項となる。教科書活用を中心としながら、それらを歳時記的・風土記的に活用できるようなカリキュラム作成の視点も必要となるだろう。

本発表では、国語科のカリキュラムについて述べるが、「歳時記的・風土記的アプローチ」とは、より教科横断的であり、他教科との関連を持たせてカリキュラム・マネージメントをするものである。今後の課題として提示し、本会の中心である和文化とどのように関連させていくのかということについても提案したいと思う。

4　小学校国語科における主体的協働的に読む授業の一提案
～三つの絵巻物を活用して～

大阪体育大学　上月　敏子

「絵巻」は、もともとは奈良時代に中国から伝わったとされるが、「絵巻」「絵巻物」という言葉は、近世になってからの造語で中世には、「○○絵」とよばれていたらしい。それがやがて掛物などと区別するために「○○絵巻」を呼ぶようになったという。その内容は、物語、説話、戦記、和歌、記録、雑（似絵）などの世俗的絵巻と、仏教・装飾経、寺社演技、高僧伝などの宗教的絵巻に分類される。①形が巻子であること②内容として（主題）あくまで「物語」（時間的経過のあるストーリー）を絵画化していること、つまり、絵が物語性をもっていることの二点が絵巻物の特徴である。こうした特徴をもつ絵巻物と現代のアニメーションに共通性を見出し、その視点も含め説明文として「鳥獣戯画を読む」（高畑勲文　光村図書出版６年）が取り上げられている。第５回小学校全国国語教育研究大会（横浜大会）において「絵巻物の魅力を５年生に巻物で伝えよう」という単元を構想しその授業の一部を公開した。教材研究を進めるうちに一枚の絵画を解説する文章を書くだけでなく、絵巻物そのものを生かしたいという思いを強くした。目的は、非連続テキストと言葉や文章を関連させながら読み、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分のものの見方を広げる力を付けることにある。「鳥獣戯画」と「伴大納言絵巻」「信貴山縁起絵巻」を重ねて、「繰り広げながら」読むことで、１２世紀に描かれた絵巻物の中に現代につながる描写やおもしろさがあることを子供たちに感じ取らせたいと考えたのである。本発表では、教科書教材と、絵巻物をどのように関連させ児童の主体的な学びと協働的な学びに結びつけようとしたのかを和文化教育の視点も含めて報告し、絵巻物のもつ教育的意義を探る。

第２分科会

司会　岡崎　均（大阪体育大学）　瀧明知恵子（奈良学園大学）

１　京街道枚方宿『意賀美神社』算額に関する研究

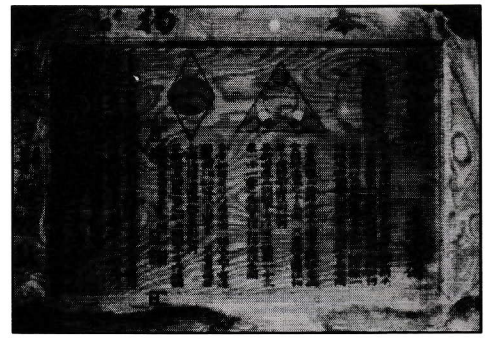
平野 年光（和算教材化研究会）　神田 裕史（枚方市教育委員会）　木谷 圭介（枚方市立枚方小）

算額奉納の習慣と研究の焦点

和算という用語は、明治新政府が導入した洋算（西洋数学）と区別して新たに名付けられた江戸期数学文化の総称である。その和文化数学の創始者というべき人物に，吉田光由がいた。吉田は寛永４(1627)年『塵劫記』を著した。以後，改訂を繰り返して，読み物としても庶民がわかるように編集を工夫した。その結果，『塵劫記』は江戸期庶民に爆発的な人気を博したのである。

和文化数学特徴の一つに算額奉納がある。

［意賀美神社奉納算額］



（安政４年(1857)奉納）

先述した数学文化を背景に，江戸も後期になると各地に数学同好会が生まれ，人々は俳句を楽しむように数学問題を解くことに熱中するようになった。そして，難問が解けたことを神・仏に感謝する意味で，絵馬として神社・仏閣に奉納する習慣が生まれたのだ。

この度は，枚方市意賀美神社に奉納された算額絵馬〔第２問〕を取り上げる。奉納者は岩田清庸(1810～1870)で，当時著名な数学者でもあった。なお，この算額は枚方市の文化財に指定されていたにもかかわらず，平成27年当時まだ市内の教育現場には殆ど知られていなかった。神田，木谷はその存在を教育現場に紹介し，枚方小学校六年生を対象にして教材化にも取り組んだ。

２　郷土奈良の仏教文化を学ぶ

奈良県立法隆寺国際高等学校　栗本　新吾

奈良県立法隆寺国際高等学校には歴史文化科という学科が設置されており、郷土奈良の歴史と文化について学ぶ独自のカリキュラムが設定されている。大学教授や地域の専門家に講義をしていただいたり、校外に出て寺社や資料館、図書館、遺跡などを訪ねたりする授業が豊富にある。私はその中の「仏教美術」などの授業を担当し、法隆寺、東大寺などの有名な寺院や博物館を見学する授業を展開している。「仏教美術」では、奈良の寺院に伝わる建築や仏像、仏画、工芸品などを実地見学し、その高い歴史的・芸術的価値を実感し、それらをつくり、祈り、守ってきた人々の歴史について学ぶ。また仏教という思想体系がインドからシルクロードを通って日本に伝来し、発展し、現在も生きているということについて、理解と興味・関心を深める内容である。

古代・中世から近世に至るまで、日本の文化は仏教文化抜きには語れず、現在も日本の社会や文化に仏教思想は大きな影響を与えている。近年は仏像の展覧会が盛況だったり、秘仏公開に多くの参拝者が訪れたりしている。このように、日本の仏教文化は現在も生きて活動しているのであり、決して過去の遺物ではない。そのことを生徒にも感じとらせたいと思っている。

仏教美術を理解するためには、その背景となった仏教哲学を理解することも必要である。ブッダが悟った真理に近づくため、様々な表現を用いて経典が書かれ、仏像や曼荼羅や来迎図がつくられ、仏を祀り修行するための伽藍が建てられた。それらは人々の叡智や技術を結集した大きな文明である。奈良はその偉大な文明を育んだ地であった。そこで本物を見て感じ取ることが、多感な高校生にとって、深い学びを得る貴重な機会であると考え、日々授業を行っている。

３　茶道具制作から学ぶ伝統文化－石川県立工業高等学校での取組をもとに－

石川県立松任高等学校　鶴野　俊哉

国立教育政策研究所教育課程センター関係指定事業「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」として、石川県立工業高等学校において実施した「茶道を通して伝統工芸を学び、豊かな心と創造性をはぐくむ教育の取組－茶道具制作から学ぶ伝統文化－」での実践経験をもとに、白山市内の総合学科併設普通高等学校である石川県立松任高等学校において、ふるさとの伝統工芸と茶道文化を体験的に学ぶ取組「茶道具制作から学ぶ伝統文化」を、白山市文化連盟と白山市茶道協会の協力を得ておこなった。

石川県版教科書である「ふるさと石川」と、ふるさと学習用映像資料である「石川新情報書府」、「シリーズ北陸の工芸作家・石川の匠たち」を活用し、石川県の伝統工芸である九谷焼と大樋焼の歴史と技法について学び、茶会で使用する自前の抹茶碗を制作した。その後、白山市茶道協会所属の茶道家の先生より茶道の歴史と茶会における心得、所作等を学び、白山市松任安楽庵において生徒主催による記念茶会を催した。

取組の結果、ふるさとの伝統文化と伝統工芸に興味関心をもち、生徒自らが主体的に学ぼうとする意欲的な学習態度を育むことが出来た。

４　「文様」で伝える吉野の魅力の情報発信活動
～「文様」をレーザー加工で施した割り箸の製作を通して～

奈良県立吉野高等学校　久見　宗資
杉本　恵司

「よしの調査隊」は、３年前に吉野の伝統・文化、そして人のもつ魅力を発信する目的で教師１名、生徒２名で結成された。その活動の中心は、木材のまち吉野町の産業を県内外にＰＲすることであり、生徒がレポーターとなって取材を行い、その様子をＳＮＳや動画配信サイトを活用し情報発信を行っている。割り箸との出会いは、この活動の中で取り上げたのがきっかけであった。吉野の割り箸は、吉野町で盛んにおこなわれていた樽丸加工業や製材の過程で出る端材を使って作られており、優良な吉野の木材を余すことなく利用することが可能な製品である。しかしながら、現在は低価格の輸入割り箸が増え、国産割り箸のシェアは１％にとどまっており、割り箸業は窮地に陥っていると言える。

「よしの調査隊」はこの現状を知り、吉野割り箸の良さをＰＲし、もっと利用されるよう、割り箸普及プロジェクトをスタートさせた。プロジェクトを進める中で、もっと付加価値のある割り箸ができないかと、様々なアイデアを出し合い、日本古来の「文様」を割り箸に施すことにした。レーザー加工機を用いて表面に「文様」を施すことで完成した割り箸を「文様割箸」と命名し普及活動に取り組んでいる。

「文様割箸」の無料配布イベントの様子を SNS・動画配信サイトで発信するなどしたことから、各方面から注目を集め大好評を得ている。そして、２０１５グッドデザイン賞を受賞するまでに至った。

第３分科会

司会　永添　祥多（近畿大学）　増井　眞樹（奈良学園大学）

１　教育と日本の伝統文化～授業・茶道・国際交流を通しての学び～

奈良学園大学人間教育学部３回生　上山　千尋

１回生の春、授業の一環で「天平祭」という平城宮跡で行われている天平文化を体感できるイベントに天皇に仕える女官として参加した。そこでは、華やかな衣装を身にまとうとともに、奈良の歴史に触れることができた。その体験から奈良の歴史や我が国の文化に興味を持ち、茶道を始めた。最初は帛紗の扱い方もお茶のいただき方も知らなかったが、茶会でお茶を点てられるまでに成長した。

茶道部として様々な催しを企画・運営する中で、地域の人と交流をすることができた。

また、国際交流に関心があり、留学や研修等で海外に行く機会を得た。中でもニュージーランドに留学した時、ホストファミリーにお茶を点てて振る舞ったことが一番印象に残っている。向こうのご家族が日本の文化に触れ、驚くとともに喜んでいた様子が今でも忘れられない。

私はこれらの経験で、日本文化を通して人と人のつながりを広げられることを実感した。特に外国の人に日本文化を伝えることで、より我が国の文化や歴史を知りたいという思いが高まった。また、外国の文化を知ろうとする気持ちが強くなり、他国の文化を尊重できるようにもなった気がする。

奈良には歴史の息吹を感じることができる建造物や史跡が数多くある。休日に法隆寺や興福寺などを訪れるが、「これ、歴史の教科書に載っていた！」といつも感激してしまう。奈良の地はいつも私に大きな発見と感動を与えてくれる。私は将来小学校の教員になるのが夢である。児童たちに我が国や郷土を愛する気持ちを育てていけるような伝統文化を伝える授業をするにはどうすれば良いのかを考えていきたい。

２　昔遊びと子どもの育ち」

南九州大学　野村　宗嗣

夕刻少し前に散歩などをすると、どこの町や村においても、子どもたちの遊ぶ姿を見かけることが少なくなっていることに気づかれると思います。

時代が昭和だった頃は、公園や授業がおわった放課後の校庭では、子どもたちが元気いっぱいに遊ぶ姿が見られていたように思います。公園や放課後の校庭では、上級生や下級生たちが、一緒に遊びに興じるといった具合であったと思います。

公園での遊びには、地域で引き継がれてきた伝承遊びなども、あったと思われます。昔からの遊びということでは、わらべ遊びというのもありました。その頃の子どもたちは、公園や放課後の遊びの中で、どんな力を育んでいったのでしょうか。

近頃、小学校では、「不器用」とされる子どもたちの指導をどのように進めるかといったことが、課題となっています。「不器用」の示す意味としては、日常生活や学校生活を過ごす上で、身体の動きやコミュニケーションがうまく行えないといったことがあげられます。「不器用」については、学校の授業のなかで「不器用」とされる動作の改善や獲得、「不器用」とされるコミュニケーションの改善や獲得をねらいに、個別または集団にて、対応がすすめれているといった状況でもあります。

本発表は、公園や放課後の子どもたちの遊びの減少が、「不器用」という子どもたちの現象として、生じているのではないかといったことから、伝承遊びやわらべ遊びといった昔遊びが、どのように子どもたちを育んできたのかを検証していければと考えてのものです。

3　双六にみる職業観・仕事観の変遷」

築地双六館　館長　吉田　修

絵双六は、それぞれの時代の風俗・習慣・価値観を映す鑑です。「上がり」にはその時代の夢・憧れ・希望が見事に表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。日本の最初の絵双六は、13 世紀後半頃天台宗の新米の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるために考案された仏法双六だといわれています。つまり、仕事を学ぶための双六でした。以来、「職業・仕事・出世」は、双六の最も重要なジャンルの一つです。鈴木正三(1579 年～1655 年・三河)は、「職分仏行説」を説き、全職業を平等で必要な天職であるとし、「修行として仕事に精進することが個人の救済、人格の完成をもたらす」としました。その後に登場する石田梅岩、二宮尊徳の勤労哲学や職業倫理にも影響を与えることになります。明治維新は職業観を一変させました。明治 5 年に敷かれた学制には、「学問は身を立つるの財本(もとで)」、つまり、勉強すれば立身出世できるという功利主義に基づく思想を内包していました。併せて、職業選択の自由や居住の自由が認められ、富国強兵の国家方針が定められました。この立身出世主義は、戦後まで大きな影響を与えました。

今回の研究発表では、以下の双六を取り上げ、江戸・明治・大正・昭和・平成の約 160 年間における日本人の職業観・仕事観の変遷を辿ります。新板商賣徃来諸職大寶會飛廻双六（安政)、新案婦人風俗雙六（明治 38 年)、實業少年出世雙六（明治 41 年)、學生雙六（明治 45 年)、女運だめし双六（大正 15 年)、へいたいさん双六 （昭和 15 年）、人生競争双六（ 昭和 25 年）、平成版諸職就業形態多様化双六（平成 16 年)、プロフェショナル時代の到来専門職業飛廻寿語録（平成 17 年）等。

4　こども狂言塾の取り組み」

和文化教育学会　吉田　廣
加西市文化・観光・スポーツ課長　高井　勝仁

加西市は、兵庫県の中部にあり、市の中央部に約１６００年前に造立された前方後円墳の玉丘(たまおか)古墳が残り、そこに根日女(ねひめ)という女性が眠ると播磨国風土記に記述されています。

当市では、播磨国風土記が平成２７年度に編纂１３００年を迎えることを記念して、様々な記念事業を開催してきました。その事業の一つとして、野村萬斎氏に監修をいただき、新作狂言「根日女」を創作しました。

風土記の中の「根日女」の記述は、後に２３代顕宗天皇、２４代仁賢天皇となる袁奚(をけ)、意奚(おけ)の二皇子が、政争に巻き込まれ播磨に隠れ住んでいた時、地元の国造許麻(くにのみやつこ こま)の娘根日女に求婚しますが、結ばれることなく根日女は亡くなってしまいます。根日女の死を聞いた二皇子は大変悲しみ、朝から夕まで陽の隠れぬ場所に、古墳を造り、玉で美しく飾り、根日女を葬ってあげようと命じる話です。

この新作狂言「根日女」を演じるために小学生たちを集め、こども狂言塾を作りました。現在３期生の小学生１７名が、プロの狂言師やボランティアスタッフの応援隊、中学生になった１期生、２期生の指導により、お稽古に励んでいます。

「根日女」を演じることで、１３００年以上も残ってきた郷里の貴重な財産を、地元の子供たちが継承していく活動を続けています。

信貴山と毘沙門天信仰

信貴山玉蔵院住職・信貴山真言宗宗務長　**野　澤　密　孝**

野澤　密孝（のざわ・みつこう）

昭和３６年１１月２日	神奈川県川崎市生れ
平成７年１１月より	信貴山玉蔵院入山
平成８年４月より	信貴山真言宗庶務部長拝命
平成９年６月より	信貴山玉蔵院住職拝命（現在に至る）
	信貴山真言宗総務部長就任
平成１３年４月より	総本山山朝護孫子寺　寺務長就任（現在に至る）
平成２３年４月より	信貴山真言宗宗務長　就任
	現在に至る

１：信貴山朝護孫子寺について

２：インド・中国における毘沙門天王

３：日本における毘沙門天王

４：信貴山での毘沙門信仰

毘沙門天の起源は諸説あるが、その尊像はギリシャにまで遡り「ヘルメス像」にその起源を見ることが出来る、という説もある。

毘沙門天という名前は、インドの神様である「Vaiśravaṇa・ヴァイシュラヴァナ」を音写したものといわれ、また財宝神「クベーラ」も毘沙門天の起源といわれる。「ヴァイシュラヴァナ」という言葉の意味から「多聞天」とも訳されている。「多聞天」といわれる時には、仏教の４人の守護神である「四天王」の中の北を護る神様として祀られている。

インドにおいては、二大叙事詩『ラーマーヤナ』のヴァイシュラヴァナ神話が有名である。仏教経典では『毘沙門天王経』や『法華経』『今光明最勝王経』などに、毘沙門天の事が記されている。

玄奘三蔵による『大唐西域記』にある毘沙門天の話や不空三蔵のよるといれる「城闍(じょうじゃ)天王」の話が、中国では流布している。

日本では、聖徳太子にまつわる話、日本最古の毘沙門天像が祀られている信貴山の話、また坂上田村麻呂公の話などが有名で、そこから、信貴山信仰や武将達の毘沙門天信仰が盛んになっている。

また直接、毘沙門天は描かれていないが、国宝『信貴山縁起絵巻』は、信貴山毘沙門天王信仰の大きな柱になっており、今日にまでその信仰は続いている。

以上のことを、文献などを踏まえながら、信貴山と毘沙門天王についてお話しいたします。

メ　モ

シンポジウム

郷土の伝統・文化等に関する学習の推進

（シンポジスト）大橋　　淳（奈良県教育委員会学校教育課指導主事）
北浦　義弘（奈良県教育委員会学校教育課指導主事）
原田　　裕（奈良県立高田高等学校教諭）
大西　浩明（奈良市立飛鳥小学校教諭）
（コメンテーター）梶田　叡一（和文化教育学会会長・奈良学園大学学長）
（コーディネーター）渡邉規矩郎（奈良学園大学人間教育学部教授）

【シンポジウム趣旨】

倭（やまと）は国の真秀（まほ）ろば　たずなづく青垣（あをかき）山籠（やまごも）れる
倭し麗（うるは）し

『古事記』に出てくる日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の有名な国偲び歌の一首です。やまとは国の中でも最も良いところです。重なり合った青い垣根の山、その中にこもっているやまとは美しい、といった意味ですが、日本武尊は、この歌を詠って東征の途中、病で亡くなっていきました。

『礼記』に「死に及んで猶その首を正して以て丘に向かふは、その本を忘れざる也」という一節があります。死に臨んで故郷を忘れず、元の丘の方へ首を向けて死ぬのが狐の習わしだとしながら、まして人間はと人に置き換え、一生涯故郷を忘れず、父母を思い、祖先を思う徳義操持の人を、古人は「首丘の人」として讃えたのであります。

奈良には、日本武尊を筆頭に、阿倍仲麻呂、吉野山で静御前と別れた義経、天誅組の吉村寅太郎をはじめ「首丘の人」は数え切れません。

神話の時代に遡ると、やまとの地は土着の神である「国つ神」が勢力をもった中心地でした。縄文文化が花開いていました。その国づくりを成し遂げた大物主大神（オオモノヌシノオオカミ）、大己貴神（オオナムチノカミ）、少彦名神（スクナヒコナノカミ）が三輪山を神座とする大神（オオミワ）神社に祀られています。『日本書紀』の伝承によると、大物主大神（大己貴神）は大国主神（オオクニヌシノカミ）の「幸魂（さきみたま）・奇魂（くしみたま）」であると名乗られ、三輪山に鎮まることを望まれたということです。

一般に言われる「神代の昔から」という表現を、近畿の人たちは、今でも「オホナムチ、スクナヒコナの昔より」と表現しますが、この地は「国つ神」が国づくりをしたところであることを忘れない「首丘の心」といってもいいでしょう。

さて、このやまとの地へ、日向（九州）を中心に勢力を拡大していた、天照大神を頂点とする「天つ神」を奉ずる稲作文明・弥生文化をもつ勢力が幾度となくこの畿内と接触を試み、そして、最終的に「天つ神」の勢力が畿内に大挙して進出してまいります。この物語が「神武東征」という形で神話に描かれています。

これがわが国における異文化との出会いであり、衝突です。それが、大国主命による「国譲り」という形で、二つの文化・文明は融和して新たな時代を築いていくわけです。

次なる文明・文化の衝突・摩擦は、仏教の伝来です。

大和朝廷は、大陸文明と仏教文化を率先して受け入れますが、やがてそこに摩擦が生じてきます。これを克服したのが大化改新です。

その後も、奈良の地は、歴史上の極めて大きな役割を果たす舞台として登場します。

「郷土の伝統・文化等に関する学習の推進」をテーマにした本シンポジウムは、伝統・文化の学習を広く捉えたいと思います。奈良県教育委員会のご協力によりまして、本シンポジウムのご提案の他にも研究発表で貴重な実践をご報告願っております。これらも踏まえながら、古都・奈良で繰り広げるにふさわしい和文化教育のシンポジウムとなり、全国に発信していければ幸いであります。

（渡邉規矩郎）

「奈良 TIME」～郷土の伝統、文化、自然等に関する学習～について

奈良県教育委員会事務局学校教育課　　大橋　淳

はじめに

奈良県は、古代に藤原京、平城京が造営され日本の中心となった地であり、日本で初めて世界遺産に認定された「法隆寺地域の仏教建造物」をはじめとして、３つの世界遺産を有するなど、先人から受け継いできた歴史、文化、自然に恵まれている。生徒が、それらの価値を認識し、郷土奈良のよさをより積極的に語ることができるよう、平成 25 年度から、県立高等学校において郷土を教材とする新しい学習「奈良 TIME」を実施することとした。

「奈良 TIME」とは

「奈良 TIME」とは、県立高等学校に入学する全ての生徒を対象に実施している郷土の伝統、文化、自然等に関する学習で、標準として３年間で 35 単位時間（１単位に相当する時間分）を実施することとしている。

「奈良 TIME」のねらい

「奈良 TIME」のねらいは、以下の３点である。

① 郷土の伝統、文化等に対する興味・関心や理解を深める。
② 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養う。
③ 国際社会の中で自立した社会人として生きる力を身に付ける。

これらのねらいのもと、我が国の郷土の伝統、文化に関心をもち、郷土の一員として社会に関わる学習活動を行うことで、郷土を愛する態度が養われ、そのことが「豊かな心」を育むことにつながると考えている。また、郷土を舞台にして、自ら課題を見付け、その解決を他者との対話を通して協働的に行う学習活動に取り組ませたり、新たな郷土の魅力をまとめて発信する学習活動に取り組ませたりすることで、主体的に学習に取り組む意欲や国際社会の中で新しい文化を創造する力としての「学ぶ力」を養うことができると考えている。

「奈良 TIME」の実施方法

教育課程上の位置付けとしては、以下の３つのいずれかの方法によるものとしている。

ア　総合的な学習の時間の中で実施する。
イ　学校設定教科・科目を設置して実施する。
ウ　各教科・科目等の学習の中で実施する。

現在、約半数以上（普通科においては４分の３以上）の学校が、**ア**の方法で実施している。**ウ**の方法は、総合的な学習の時間を課題研究等で代替している専門学科を有する高等学校などで多く実施している。

「奈良 TIME」の充実に向けて

県教育委員会では、「奈良 TIME 指導事例集」と、事例集を活用した授業の様子を収めた映像資料集を作成し、全ての県立学校に配布している。さらに、教員の指導力の向上を目指した指導研修会を定期的に開催するとともに、生徒の発表の場を設定し、各学校での取組の活性化を図っている。また、毎年、いくつかの学校の事例をまとめ、各学校に追加配布している。

県内小・中学校における郷土学習の充実

奈良県教育委員会事務局学校教育課　　北浦　義弘

1　御所市立御所小学校

（1）単元名　「『御所まち』へＧＯ！」（総合的な学習の時間）

（2）教　材　「御所まち」

「御所まち」は江戸時代初期に形成された陣屋町である。当時の町並みがほぼそのままの姿をとどめているのは、全国的にみても非常に珍しい。「御所を元気にしたい」という願いから、その町並みや風景など、御所まちの魅力を町おこしに生かそうと、鴨都波神社の「若衆会」やNPO団体が活発に活動している。

この御所まちは、子どもが当時の町の様子や生活を想像しながら興味深く取り組むことができるだけでなく、御所まちを守り発展させようと願う人々の努力や願いを知ることができる。子ども達が身近にある御所まちを見直し、そこから発見した魅力を案内コースにまとめる活動を通して、問題解決能力の育成と地域への愛着を高めることが期待できる。

（3）展開の概要

初めに、御所まちの活性化に向けて活動している方々を招聘したり、御所まちに出かけ実地調査を行ったりして、その概要を理解させる。次に、「御所小子ども観光課」を立ち上げ、御所まちの魅力を伝える観光案内コースを作成させる。様々な魅力をいくつかのテーマに分け、テーマ別グループにより案内コースを作成する。そして、グループ同士で互いにコースを案内し合ったり、意見交流したりしながらコース改善を図り、最終的に一冊のパンフレットにまとめさせる。

2　東吉野村立東吉野小学校

（1）単元名　「天誅組と東吉野村を150年間つなげてきたものは何だろう」（総合的な学習の時間）

（2）教　材　「天誅組と村民とのつながり」

幕末の1863年に吉村寅太郎をはじめ尊王攘夷派の浪士集団（天誅組）が大和国で決起したが（天誅組の変）、後に幕府軍に討伐された事件である。40日余りの戦闘の後、東吉野村において事実上壊滅した。天誅組の変は、幕府に対する尊王攘夷派の初めての武力蜂起という点で画期的なものであった。明治政府発足後、その評価が高まり、天誅組志士たちの法要や墳墓の建設など、慰霊と顕彰活動が活発になった。

本単元では、150年間受け継がれてきた天誅組と村民のつながりについて探究する活動を通して、天誅組志士の命をかけて果たそうとした志と、志士を大切に供養してきた村民の優しさに気付かせるとともに、小学校を巣立つ児童に目標をもって生きることの大切さについて考えさせ、地域への誇りをもたせることが期待できる。

（3）展開の概要

天誅組の変について、史跡を巡ったり地域の古老の話を聞いたりしながら、課題別グループを編成して調査を行い事実を理解していくとともに、志士たちの行動の目的や願いを考えさせる。また、普段から天誅組を供養する人々や天誅組顕彰会の人々に聞き取りを行い、収集した情報を整理・分析しながら150年間天誅組と村民をつなげてきた志の尊さ、思いやりなどについて考えを深めさせる。これらの学習を通して、今後の自分の生き方について考えをもたせる。

3　奈良市立月ヶ瀬中学校

（1）単元名　月ヶ瀬観光戦略課～ふるさとに愛着をもって～（総合的な学習の時間）

（2）教　材　月ヶ瀬の観光資源

奈良市月ヶ瀬地区は、1922年（大正11年）に金沢の兼六園・奈良公園と共にわが国最初の名勝地に指定された月ヶ瀬梅林で有名である。近年は1年中観光客が訪れ楽しむことができるよう、梅が咲く春先だけでなく、茶摘みや炭焼き、また温泉の開発など、この地区の自然や文化を生かした観光に力を入れている。

本単元では、人口減少や産業の停滞という月ヶ瀬地区の課題の解決に向け、観光資源を見つめ直し、地域の魅力とその発信方法について探究する活動を通して、生徒の主体性とともに協同的に追究する力や地域への愛着を高めることが期待できる。

（3）展開の概要

月ヶ瀬地区の名所と共に人口減少等の実態を把握し、また、住民のふるさとに対する願いを受け、地区のよさを生かし発信させるため「月ヶ瀬観光戦略課」を立ち上げる。観光客を増やすアイディアと方法をグループごとに企画し、企画会議での協議を通して最適な案を決定させる。決定した企画案を観光協会や行政センターなどの協力も得ながら全体で練り上げ、よりよい企画へと仕上げさせていく。そして、奈良駅前行基前広場などでＰＲ活動を行うなど、企画を実行させる。

『義経千本桜』の上演をめぐって

奈良県立高田高等学校　　原田　裕

≪狐忠信と静≫

1　「探究」について

高田高校では、第１学年時に、週２時間総合学習の時間（「探究」）を配当。入学時に希望をとり、環境、福祉共生、やまと学、海外事情、芸術文化の５コースに分かれてクラスを編成（学年９クラス）。それぞれのコースを３名の教員で担当（芸術文化のみ４名）。

共通目標は、１）主体的な学習態度の育成　２）幅広い人間力の形成。

2　芸術文化コースについて

ⅰ）目標　　古典芸能をテーマに学習。近年では「義経千本桜」を取り上げ人形浄瑠璃を上演してきたが、本年は、歌舞伎寄りの舞台上演を計画。以下を目標とする。

(1)上演を通じ積極的に自己の意見を伝えようとする意欲・態度を身につけること

(2)上演を通じて、他のメンバーとコミュニケーションを取る能力を養うこと

(3)演劇・舞台芸術・古典芸能への関心を持つこと

ⅱ）年間計画（概要）

１学期：①演劇のビデオ鑑賞　②身体訓練の初歩　③古典芸能の鑑賞

２学期：①文化祭での舞台発表　②木ノ下歌舞伎による講義とワークショップ

＊②は文科省の芸術家派遣プログラムを利用

３学期：発表に向けての演劇練習

＊１１月と１月の２カ月の授業時間の中の練習で発表に臨んだ。

ⅲ）最終発表

日時：平成２８年２月６日（土）１４時開演（上演時間７０分）

会場：奈良県橿原文化会館小ホール

演目：義経千本桜　第１部：オープニングラップ・すしや・大物浦・初音道行

中入り：飛鳥法眼の漫才　第２部：河連法眼館の場～四の切り

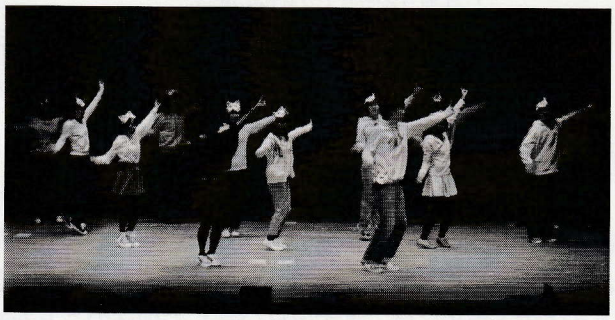
ラップ・寸劇・ダンスなどを駆使しての演出による上演。第１部では全員キャストで出演。

定員３００人のホールで観客は２００人超。

3　成果

発表についての自己評価や観客アンケートから、本公演は質が高く、成功裏に終えることができたといえる。

≪大物浦　知盛の舞≫



≪初音の道行　踊る狐たち≫

※上演に際しては、公益財団法人　日本教育公務員弘済会奈良支部の後援、助成金を受けている。

奈良を撮り続けた人　～入江泰吉の学習から～

奈良市立飛鳥小学校　　大西　浩明

写真家、入江泰吉（1905～1992）は、終戦後まもなくから奈良の風景や仏像などの写真を撮り続けた。戦勝国のアメリカが仏像などの古美術を持ち帰るという噂を耳にした入江は、奈良の仏像を写真で記録することを決意する。そんな奈良の置かれた状況に危機感をもった入江は、数多くの文化人と交流をもち、様々な人から刺激を受けながら奈良の風景や仏像を撮り続けた。本校の卒業生でもある入江泰吉と校区にある「入江泰吉記念写真美術館」を、総合的な学習の時間の題材として取り上げ、奈良に対する深い思いや自らの仕事に対する厳しさを感じることで、奈良のよさを感じ、自分たちの身近な地域への誇りと愛着を育むことができるとともに、自らの生き方を考えるきっかけにすることが期待できる。

実践の概要（全14時間）

第一次　写真美術館や入江泰吉について知ろう（5時間）
- 入江泰吉の作品を見て、入江や写真美術館のことについて調べ、分かったことを共有する。
- 各自デジタルカメラを1台持ち、奈良公園で写真を撮影する。

第二次　入江泰吉の奈良への思いを考えよう（3時間）
- 写真美術館の見学と学芸員からの聞き取りをする。
- 入江泰吉の「奈良への思い」についてねり合う。

第三次　入江泰吉のように自分が美しいと思う奈良の風景を写真に撮ろう（5時間）
- 自分の奈良へのこだわりを考え、撮影の計画を立てる。
- 写真美術館の学芸員から効果的な写真の撮り方を教えてもらう。
- 各自デジタルカメラを1台持ち、奈良公園で2回目の写真を撮影する。
- 写真の発表会をもち、各自の写真に込めた思いを交流する。

1回目

【一児童の作品】
奈良のシカがおいそそうに草を食べているようすを工夫してアップで撮りました。奈良のシカは、奈良公園の自然があって生き続けていることを伝えたいと思いました。

2回目

第四次　学んで考えたことを話し合おう（1時間）
- 学んだことをもとに飛鳥や奈良について考える

課外　　発信しよう
- 写真美術館での作品展示
- 彦根市立城北小学校との交流会（ユネスコスクール学校間交流）
- 第6回世界遺産学習全国サミット in おおむた（福岡県大牟田市 2015. 10）での児童実践発表

実践の成果

入江の生涯を調べたり奈良に対する思いを聞いたりして、写真に込められた思いを知ると、1回目に撮影した自分たちの写真には何か思いが足りないという新たな気付きが生まれるとともに、「奈良のよさを伝えるために」という目的意識ができ、もっと奈良のよさを考えようとする行動が見えてきた。自分たちの地域に誇りがもてるようにするためには、まずは自分たちの地域のことを知り、そのよさを実感することが重要である。その一つの方法として、この実践は有効であったと感じる。

資　　料

和文化教育学会会則

第１章　総則

第１条　本会は、和文化教育学会と称する。

第２条　第２条 本会は、我が国の生活文化、地域文化、伝統文化などを含む和文化の振興を図り、文化創造としての和文化教育の普及と発展に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、当面の間、事務局を関西学院大学教育学部中村哲研究室におく。

第２章　事業

第４条　本会は、第２条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 教育研究会の開催。
(2) 実演・交流会の開催。
(3) 講習会の開催
(4) 学会誌及び情報誌の発行。
(5) その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第３章　会員

第５条　会員は、本会の目的に賛同し、本会への入会申し込みを行った者によって組織する。会員は、正会員と賛助会員の２種とする。

第６条　正会員は、本会の事業に参加し、活動できる個人及び団体とする。

第７条　賛助会員は、本会の事業に賛同し、活動を支援できる個人及び団体とする。

第８条　正会員は、別に定める会費を納入しなければならない。

２ 賛助会員は、別に定める賛助費を納入しなければならない。

第９条　会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

(1) 退会届の提出をしたとき。
(2) 本人が死亡したとき、また失踪したとき、又は所属団体が消滅したとき。
(3) 継続的に3年以上会費を滞納したとき。
(4) 除名されたとき。

第10条　会員は、退会しようとするときは、その旨を所定の退会届を会長宛に提出して任意に退会することができる。

第４章　組織および運営

第11条　本会は、事業を運営するために次の役員をおく。

(1) 会長 1名
(2) 副会長 1名
(3) 理事長 1名
(4) 理事 10名以上
(5) 支部長 支部数以上
(6) 幹事 5名以上
(7) 監査 2名
(8) 顧問 若干名

第12条　役員は、次のようにして決定する。

(1) 理事、支部長、監査は、正会員のうちより選出し、総会において決める。
(2) 会長、副会長、理事長は、理事会において推薦し、総会において承認する。
(3) 幹事は、理事の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。
(4) 顧問は、理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第13条　役員の任務は、次のように定める。

(1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故などがあるときは、会長職務を代行する。(3) 理事長は、本会の運営を統括する。
(4) 理事は、理事会を組織し、本会の運営について審議する。
(5) 支部長は、支部会員の協力を得て本会及び各支部の事業を遂行する。
(6) 幹事は、本会の運営における庶務、企画、会計、広報などの仕事を遂行する。
(7) 監査は、本会の会計を監査する。
(8) 顧問は、会長の諮問に与る。

第14条　各役員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

第15条　総会は、毎年１回以上開催し、本会の事業及び運営にする重要な事項を審議決定する。

第16条　本会は、理事会の議を経て、領域別及び地区別の支部をおくことができる。なお、支部の活動の規定は、別に定める。

第５章　会計

第17条　本会の経費は、会費、参加費、講習費、寄付金などの収入をもってこれにあてる。

第18条　本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

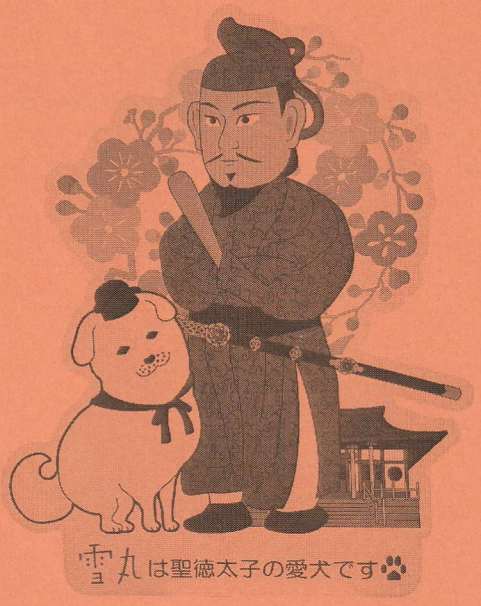
第６章　学会誌等編集

第19条　学会誌等の編集発行は、別に定める規定に基づく編集委員会において行う。

第20条　学会誌は、正会員に配布する。なお、別に定める学会誌代を納入する希望者には販売することができる。

附則

1. 本会則の改正は、総会の決議による。
2. 本会則は、平成１７年(2005)年本会発足日から施行する。なお、平成24年11月25日の総会にて一部改正が決議されたことにより、本会則は、平成25(2013)年4月1日から施行する。
3. 本会の設立当初の会費、補助費、一括会費は、第９条の規定にかかわらず、次の額とする。本会費（正会員）個人 3、000円、団体 10、000円を一口とし、一口以上。
   賛助費（賛助会員）個人及び団体とも1、000円を一口とし、一口以上。


雪丸は聖徳太子の愛犬です